

# 花泉小学校いじめ防止基本方針

## はじめに

ここに定める方針は、「いじめ防止対策推進法」（以下「法」という）の第13条を踏まえ、本校におけるいじめ問題等に対する具体的な方針及び対策等を示すものである。

## 1 いじめの問題に対する基本的な考え方

### (1) 定義

法：第2条

「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人間関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

### (2) 基本認識

教育活動全体を通じて、以下の認識に基づき、いじめの防止等に当たる。

- ・「いじめは、人間として絶対に許されない」
- ・「いじめは、どの学校でも、どの子にも起こり得る」
- ・「いじめは、見ようと思って見ないと見つけにくい」

### (3) 学校としての構え

- ・学校は、児童の心身の安全・安心を最優先に、危機感をもって未然防止、早期発見・早期対応並びにいじめ問題への対処を行い、児童を守る。
- ・全ての教職員が一致協力した組織的な指導体制により対応する。
- ・「いじめは人間として絶対に許されない」という意識を、教育活動全体を通じて、児童一人一人に徹底する。
- ・「いじめをしない、させない、許さない学級・学校づくり」を進め、児童一人一人を大切にする教職員の意識や日常的な態度を醸成する。
- ・いじめが解消したと即断することなく、継続して十分な注意を払い、折に触れて必要な指導を行い、保護者と連携を図りながら見届ける。

## 2 いじめの未然防止のための取組（自己有用感を高める取組）

### (1) 魅力ある学級・学校づくり（「学び合いのある授業」の推進、規範意識・主体性・自治力等を育成する指導等）

- ・全ての児童が、主体的に活動したり、互いに認め合ったりする中で達成感を味わえる「学び合いのある授業」づくりを推進し、教科指導を充実する。
- ・全ての児童が大切な学級の一員であり、一人一人が仲間と関わり、自己存在感を味わいながら、望ましい人間関係をつくることができるよう、よさを認め合う学級経営を充実する。
- ・いじめや暴力、差別や偏見等を見逃さず、学級活動はもとより児童会活動等でも適時取り上げ、児童が主体的に問題解決に取り組むよう指導する。
- ・教育活動全体を通じて、全教職員が自他の生命のかけがえのなさや人を傷付けることが絶対許されないことなどについて、具体的な場面で繰り返し指導する。
- ・「学級・学校に居場所がある」ということが感じられるような心の成長を支える教育相談

に努める。

## (2) 生命や人権を大切にする指導（豊かな心の育成）

- ・様々な人と関わり合って社会性を育み、他人の心の痛みや生きることの喜び等を理解できるよう、自然や生き物との触れ合いや幅広い世代との交流、ボランティア活動等の心に響く豊かな体験活動を充実する。
- ・教育活動全体を通じて、児童一人一人に命を大切にする心、他を思いやる心、自律の心、確かな規範意識等が育つ道德教育を充実する。
- ・誰もが差別や偏見を許さず、互いに思いやりの心を持って関わることをするための「認識力」「行動力」「自己啓発力」を育む人権教育を充実し、人間尊重の気風がみなぎる学校づくりを進める。

## (3) 全ての教育活動を通じた指導（自己指導能力の育成）

- ・教育活動全体を通じて、以下の3点を留意した指導を充実する。
  - ① 児童に自己存在感を与える
  - ② 共感的な人間関係を育成する
  - ③ 自己決定の場を与え自己の可能性の開発を援助する

## (4) インターネットを通じて行われるいじめに対する対策の推進

- ・スマートフォンや通信型ゲーム機等の取扱いに関する指導の徹底について、教職員及び保護者の間で共通理解を図る。また、スマートフォンや通信型ゲーム機等を介した誹謗中傷等への適切な対応に関する啓発や情報モラル教育等についての指導を一層充実する。
- ・インターネット上のトラブルやSNSの使い方について、5年生以上の親子情報研修や、保護者や地域の方も交えた交流会等、自治的な活動を充実する。

# 3 いじめの早期発見・早期対応

## (1) アンケート調査等の実施を含めた的確な情報収集、校内連携体制の充実

- ・いじめ等の問題行動の未然防止、早期発見・早期対応ができるよう、日常的な声かけ、定期的なアンケート「生活アンケート」（記名式）の実施とそれに基づいた教育相談等、多様な方法で児童のわずかな変化の把握に努めるとともに、変化を多面的に分析し、対応に生かす。
- ・年間に「生活アンケート」「心とからだの健康観察」等のアンケート調査がおおむね3か月に1回程度行われるよう適切に計画し、「いじめ未然防止・対策委員会」で学校の状況等を確認し、対策を検討する。
- ・月例の職員会議での報告や普段からの学級担任や養護教諭等全教職員（学校サポーターや読書普及員も含む）が、些細なサインも見逃さない、きめ細かい情報交換を日常的に行い、いじめの認知に関する意識を高める。また、担任はチェックリスト表等を活用し、いじめの早期発見・早期対応に努める。

## (2) 教育相談の充実

- ・教職員は、受容的かつ共感的な態度で傾聴・受容する姿勢を大切に教育相談を進める。特に、問題が起きていない時こそ信頼関係が築けるよう、日頃から児童理解に努める。
- ・問題発生時においては、「大丈夫だろう」と安易に考えず、問題が深刻になる前に早期に対応できるよう、危機意識をもって児童の相談に当たる。

- ・児童の変化に組織的に対応できるようにするため、生徒指導主事（教育相談も含む）を中心に、担任、養護教諭等、校内の全教職員がそれぞれの役割を相互理解した上で協力し、保護者や関係機関等と積極的に連携を図る。

### (3) 教職員の研修の充実

- ・年度当初の職員会や夏季休業中の現職研修はもちろんのこと、必要に応じて適宜職員研修を行い、県や市のいじめ防止基本方針の概要や各種啓発資料等を活用したり、対応マニュアルを見直したりして、一人一人の教職員が、早期発見・早期対応はもちろん、未然防止に取り組むことができるよう、校内研修を充実する。
- ・いじめの事案があった際には、その事案から生きた教訓を学ぶなど教職員の研修を行う。

### (4) 保護者との連携

- ・いじめの事案が確認された際には、いじめた側、いじめを受けた側ともに保護者への報告を行い、謝罪の指導を親身になって行う。その指導の中で、いじめた側の児童にいじめが許されないことを自覚させるとともに、いじめを受けた児童やその保護者の思いを受け止め、いじめる児童自身が自らの行為を十分に反省する指導を大切にする。いじめの問題がこじれたりすることがないように、保護者の理解や協力を十分に得ながら指導に当たり、児童の今後に向けて一緒になって取り組んでいこうとする前向きな協力関係を築くことを大切にする。

### (5) 関係機関等との連携

- ・いじめを中心とする生徒指導上の諸問題を学校だけで抱え込まず、その解決のために、日頃から教育委員会や警察、児童相談所、民生児童委員、学校評議員等とのネットワークを大切に、早期解決に向けた情報連携と行動連携を行い、問題の解決と未然防止を図るように努める。
- ・インターネット上の誹謗中傷等については、保護者の協力を得ながら迅速に事実関係を明らかにするとともに、状況に応じて警察等の関係機関と連携して解決に当たる。

## 4 いじめ未然防止・対策委員会の設置

法：第22条

学校は、当該学校におけるいじめの防止等に関する措置を実効的に行うため、当該学校の複数の教職員、心理、福祉等に関する専門的な知識を有する者その他の関係者により構成されるいじめの防止等の対策のための組織を置くものとする。

- ・いじめの未然防止、早期発見・早期対応等を実効的かつ組織的に行うため、また、重大事態の調査を行う組織として、以下の委員により構成される「いじめ防止・対策委員会」を設置する。

学校職員：校長、副校長、教務、生徒指導主事、養護教諭

学校職員以外：保護者代表、学校評議員、民生児童委員 等

## 5 いじめ未然防止、早期発見・早期対応の年間計画

月	取組内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会議で「方針」説明。「いじめの認知について」の確認</li> <li>・PTA総会での保護者への周知</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員研修会の実施（「方針」、前年度のいじめの実態と対応等）</li> <li>・児童の実態を把握する。</li> </ul>
5 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴールデンウィーク後の生活習慣の見直しと改善</li> <li>・学習や生活の悩みの早期発見、解消を図る。</li> </ul>
6 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生活アンケート①」の実施。結果を基に、問題の経過を把握し、支援に活かす。教育相談の実施。</li> <li>・第1回民生委員交流会で「方針」説明と1学期の様子の説明（「いじめ未然防止・対策委員会」を兼ねる）</li> <li>・自己肯定感を持ち、友だちと適切な関わりができるようにする。</li> </ul>
7 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回学校評議員会で「方針」説明と1学期の様子の説明（「いじめ未然防止・対策委員会」を兼ねる）</li> <li>・問題行動等を整理して、2学期からの支援に活かす。</li> </ul>
8 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員研修会（ネットいじめも含めた研修会・教育相談研修会）</li> </ul>
9 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休み後の生活習慣の見直しと改善</li> <li>・「心とからだの健康観察」の実施</li> </ul>
10 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習発表会の行事を通して児童理解と集団づくりを行う。</li> </ul>
11 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生活アンケート②」の実施。1学期の実態を踏まえて問題の経過を追うとともに、新たな問題の早期発見、早期解消を図る。</li> <li>・教育相談を実施し、自己肯定感を高める。</li> <li>・PTA研修会（ネットいじめも含めた研修会）</li> </ul>
12 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校評価アンケート」の実施（保護者）</li> <li>・「自己評価」の実施（教職員）</li> <li>・問題行動等を整理し、3学期からの支援に活かす。</li> </ul>
1 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬休み後の生活習慣の見直しと改善</li> <li>・1・2学期の実態を踏まえて問題の経過を追うとともに、新たな問題の早期発見、早期解消を図る。</li> </ul>
2 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生活アンケート③」の実施。2学期の実態を踏まえて問題の経過を追うとともに、新たな問題の早期発見、早期解消を図る。</li> <li>・授業参観で学校評価アンケート結果を報告。</li> <li>・第2回民生委員交流会及び第2回学校評議員会で学校評価アンケート結果を報告し意見を求める。（「いじめ未然防止・対策委員会」を兼ねる）</li> </ul>
3 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題行動等を整理し、次年度へ確実に引き継ぐ。</li> </ul>

## 6 いじめ問題発生時の対応

### (1) いじめ問題発生時・発見時の初期対応

#### 【組織対応】

- ・「いじめ未然防止・対策委員会」で方針を確認し、事実確認や情報収集、保護者との連携等、役割を明確にした組織的な動きをつくる。

#### 【対応の重点】

- ・いじめの兆候を把握したら、速やかに情報共有し、組織的かつ丁寧に事実確認を行う。
- ・いじめの事実が確認できた、或いは疑いがある場合には、いじめを受けた（疑いがある）児童の気持ちに寄り添い、安全を確保しつつ組織的に情報を収集し、迅速に対応する。
- ・いじめに関する事実が認められた場合、いじめた側といじめを受けた側の双方の保護者

に説明し、家庭と連携しながら児童への指導に当たる。

- ・保護者との連携の下、謝罪の指導を行う中で、いじめた児童が「いじめは許されない」ということを自覚するとともに、いじめを受けた児童やその保護者の思いを受け止め、自らの行為を反省する指導に努める。
- ・いじめを受けた児童に対しては、保護者と連携しつつ児童を見守り、心のケアまで十分配慮した事後の対応に留意するとともに、二次被害や再発防止に向けた中・長期的取組を行う。
- ・いじめに関する事実と指導の経過を教育委員会へ報告する。

#### 〔大まかな対応順序〕

- ① いじめの訴え、情報、兆候の察知
- ② 管理職等への報告と対応方針の決定
- ③ 事実関係の丁寧で確実な把握（複数の教員で組織的に、保護者の協力を得ながら、背景も十分聞き取る）
- ④ いじめを受けた側の児童のケア（必要に応じて外部専門家に力を借りる）
- ⑤ いじめた側の児童への指導（背景についても十分踏まえた上で指導する）
- ⑥ 保護者への報告と指導についての協力依頼（いじめた側の児童及び保護者への謝罪を含む）
- ⑦ 関係機関との連携（教育委員会への報告、警察や児童相談所等との連携）
- ⑧ 経過の見守りと継続的な支援（保護者との連携）

#### (2) 「重大事態」と判断された時の対応

- ・いじめにより児童の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき、いじめにより児童が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるときについては、以下の対応を行う。

##### 〔主な対応〕

- 教育委員会へ「第一報」を速やかに報告する。
- 当該重大事態と同種の事態発生を防止に資するため、教育委員会の指導の下、事実関係を明確にするための調査に当たる。
- 上記調査を行った場合は、調査結果について、教育委員会へ報告するとともに、いじめを受けた児童及びその保護者に対し、事実関係その他必要な情報を適切に提供する。
- 児童の生命、身体又は財産に重大な被害が生じる恐れがあるときは、直ちに所轄警察署に通報し、適切な援助を求める。

#### 7 学校評価における留意事項

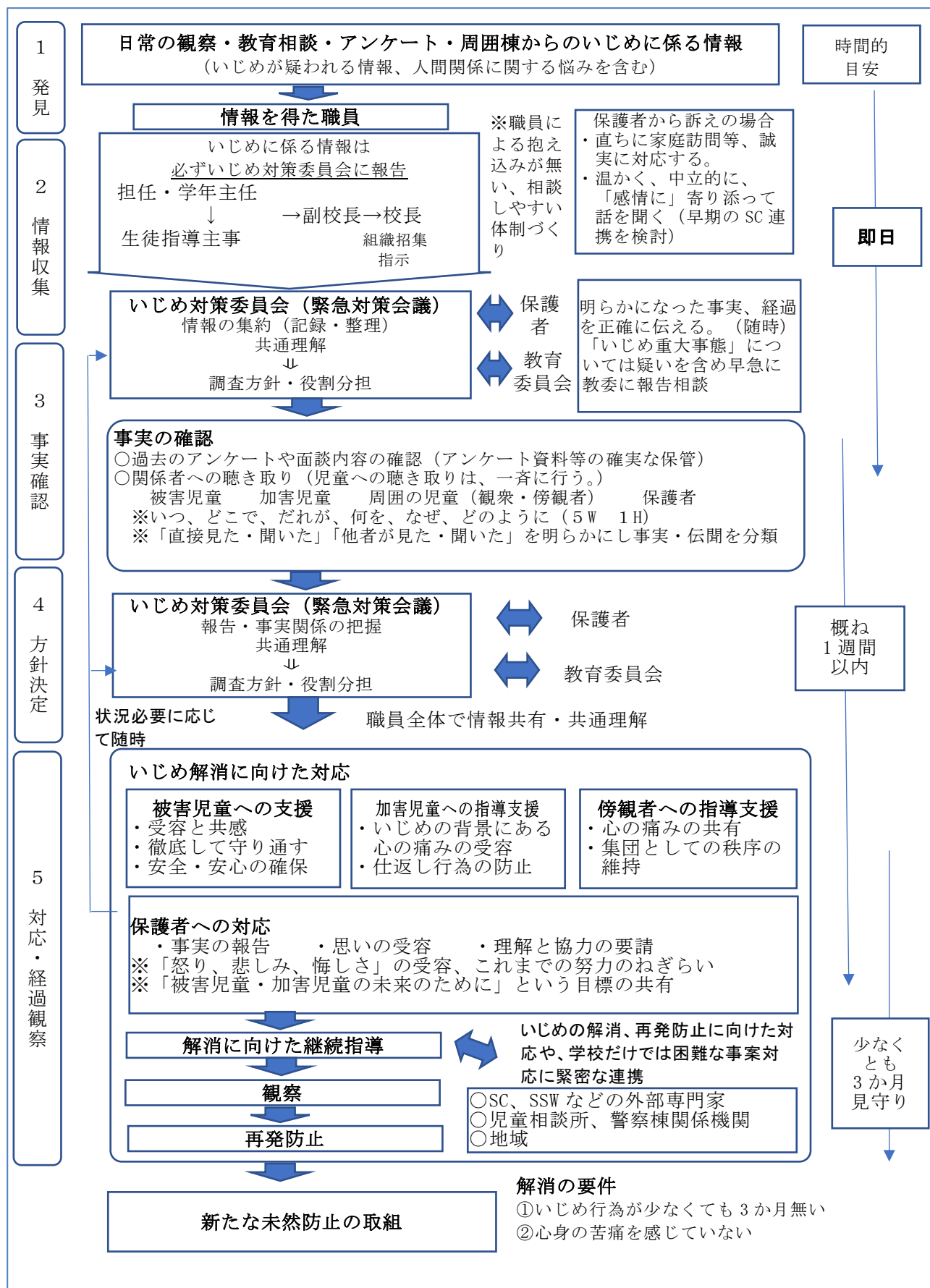
- ・いじめを隠蔽せず、いじめの実態把握及びいじめに対する措置を適切に行うため、学校評価において次の2点を加味し、適正に学校の取組を評価する。
  - いじめの早期発見の取組に関すること
  - いじめの再発を防止するための取組に関すること

#### 8 個人情報等の取扱い

##### ○ 個人調査（アンケート等）について

- ・いじめ問題が重大事態に発展した場合は、重大事態の調査組織においても、アンケート調査等が資料として重要となることから、18歳まで保存する。

# いじめ事案対応フローチャート（組織対応の流れ）



# 花泉小学校□いじめ防止基本方針□ダイジェスト版

## 早期発見

早期発見のために

担任□□

被害者からの相談

周囲の子どもからの情報提供

日常観察

日常的相談活動

教職員□

日記、生活記録ノート等からの情報

定期的アンケート調査（6月、11月、2月）

定期的教育相談（6月、11月）

教職員同士の情報

保護者からの相談、申し立て

学校外□

外部からの情報提供、通報

いじめのレベル（区分）について

学校の感度を上げておく  
発見の網（二重、三重に）

いじめの  
情報

## 早期対応

「いじめ防止対策委員会」開催

・情報の整理

・「いじめ」かどうかの判断

・対応方針の確認

### 1□いじめの事実確認（正確に□迅速に）

□(1)□被害者からの聞き取り

□(2)□周囲の子どもからの聞き取り

□□・状況把握で事実を固める

□(3)□加害者からの聞き取り・事実確認

□□・事実をもって丁寧に扱う

□□・自白の強要にならぬように

対策委員会の要点

・全容の確認

・対応方針の確認□□□

・市教委への報告

□・まずはいじめの事実を一報（電話・口頭）

□・一旦指導が済んだものはA4版1枚で報告書提出

□・市教委から指示の場合顔末報告書

□□□□

### 2□いじめへの指導

□(1)□加害者への指導

□□・形式的謝罪のみにならぬよう

□□・社会性の向上、人格の成長に主眼

(2)□集団への指導

□□・いじめは許されない行為

□□・止めさせる、知らせる勇氣□・尊重し合う集団

(3)□加害者保護者への対応

□□・事実説明、協力要請、助言

(4)□被害者、保護者への対応

□□・事実説明（中途でも、経過を報告）□・方針表明

(5)□その他

□□・懲戒の検討□□・観察、手段の確認□等

### 3□重大事態の場合

□(1)□教育委員会

□□・調査□□□学校主体

□□□□□□□教育委員会主体□→（調査委員会設置）

□□・被害児童生徒、保護者へ確認した事実を説明

□□□□□□□□□□□□□□今後の対応表明、実行

□□・市長への報告

□□□□□→（附属調査機関設置）□→（議会への報告）

□□□□□→（総合教育会議開催）

□(2)□犯罪の場合□警察への通報

## 未然防止

未然防止のために

○いじめ防止学校基本方針の共有・実行・見直し（毎年）

○道徳教育・体験活動の充実

○PTAいじめ防止の啓発活動

○児童会によるいじめ撲滅取組み

○教職員いじめ防止研修会

○いじめ対策の学校評価

○いじめ防止対策推進委員会（定例□年間3回）

### いじめの定義

「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人間関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

### いじめを生まない集団づくりのために

～いじめ防止に関わる様々な取組具体例～

○児童総会でのいじめ防止についての話し合い

○学級いじめ防止宣言の作成（100万人の行動宣言へ応募）

○校内いじめ防止標語、ポスターコンクール

○福祉作文、人権作文の取り組み

○縦割り遊び集会、マラソン大会、学習発表会

○特別支援学級と親学級のふれあい活動

### いじめを生まない集団（学級）づくりに必要なこと

○一人ひとりに自己存在感を与える（居場所づくり）

□・自分が価値ある存在であることを実感→自己肯定感

□・学級が安心できる居場所になること

・学ぶ楽しさ、達成感、充実感を感じさせること

○共感的な人間関係を育成すること（絆づくり）

□・認め合い、学び合い、話し合いによる合意（折り合い）

□□→自己有用感、所属感、連帯感をもたせる

□・「違う」ことを『多様性』として認め合うことができる

### 必携資料

○いじめ防止学校基本方針

○一関市いじめ防止基本方針

○いじめ防止対策推進法（H25法律）

○いわて「いじめ問題」防止対応マニュアル